

## 教育・保育の「量の見込み」

教育・保育 1～4

4月1日現在（認可保育園在園児＋保留児童）

## 1 「3号認定（0歳児）」

制度における事業の概要	(認定こども園及び保育所＋地域型保育) 満3歳未満の子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	0歳児：保育の必要性あり		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（就学前） 問16
	<p>問16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答した者のうち、問16で「3.認可保育園（都道府県等の認可を受けたもの）」から「11.居宅訪問型保育（ベビーシッターなど）」のいずれかを選択した者の割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;          量の見込みは、実績値よりも大幅に上回る数値になっている。これは、国の算出方法には育休取得者数が反映されていないためだと考えられる。          ただし、国の手引きには留意事項として、育休取得者数を見込み量から差し引き、育休明けの利用意向率調整をする方法（1歳以降に教育・保育を利用したい、と考えている人を除外）が記載されている。この方法を採用しても本市の場合、乖離が大きく、過年度実績（令和2年度～令和5年度の平均利用率18.2%）を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

## &lt;国の算出方法&gt;

(人)

	量の見込み					過年度実績				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	989	998	1,004	1,012	1,016	243	227	204	189	212

## &lt;戸田市の算出方法&gt;

	調整後の量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	224	226	227	229	230

## 2 「3号認定(1歳)」

制度における事業の概要	(認定こども園及び保育所+地域型保育) 満3歳未満の子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	1歳児		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査(就学前) 問16
	<p>問16(平日定期的に利用したい教育・保育の事業)に回答した者のうち、問16で「3.認可保育園(都道府県等の認可を受けたもの)」から「11.居宅訪問型保育(ベビーシッターなど)」のいずれかを選択した者の割合(但し、無回答を除いて割り戻す)を算出する。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;          量の見込みは、実績値よりも上回る数値になっている。          また、育休明けの利用意向率調整をする方法は、3歳以降に教育・保育を利用したい、と考えている人を控除する方法の算出もしたが、乖離がやや大きく0歳児同様、過年度実績(令和2年度~令和5年度の平均利用率52.0%)を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

(人)

	量の見込み					過年度実績				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	773	865	872	879	885	649	665	647	649	637

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	571	640	645	650	655

### 3 「3号認定(2歳)」

制度における事業の概要	(認定こども園及び保育所+地域型保育) 満3歳未満の子どもであって、家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	2歳児		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査(就学前) 問16
	<p>問16(平日定期的に利用したい教育・保育の事業)に回答した者のうち、問16で「3.認可保育園(都道府県等の認可を受けたもの)」から「11.居宅訪問型保育(ベビーシッターなど)」のいずれかを選択した者の割合(但し、無回答を除いて割り戻す)を算出する。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>量の見込みは、実績値よりも下回る数値になっているため、過年度実績(令和2年度~令和5年度の平均利用率58.0%)を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

(人)

	量の見込み					過年度実績				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	624	644	721	727	732	745	710	748	730	734

令和3年、4年の出生数の落ち込みにより令和7年、8年の数値が減少しています。

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	596	616	689	695	699

#### 4 「2号認定（保育所利用）」

制度における事業の概要	（認定こども園及び保育所） 満3歳以上の小学校就学前の子どもであって、保護者の労働等により家庭において必要な保育を受けることが困難であるもの		
対象者	3歳以上のみ		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（就学前） 問16
	<p>問16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答した者のうち、問16で「1.幼稚園（通常の就園時間の利用）」から「11.居宅訪問型保育（ベビーシッターなど）」のいずれかを選択した者の割合（但し、無回答を除いて割り戻す）から、「2号認定（幼児期の学校教育の利用希望が強いと想定されるもの）」の割合を控除した割合を算出する。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;          量の見込みは、実績値を約500人下回る数値になっている。そのため、過年度実績（令和2年度～令和5年度の平均利用率53.1%）を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

（人）

	量の見込み					過年度実績				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	1,692	1,561	1,525	1,552	1,633	2,061	2,215	2,107	2,140	2,106

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	1,804	1,664	1,626	1,655	1,741

教育・保育 5

5月1日現在（幼稚園）

5 「1号認定」

制度における事業の概要	(認定こども園及び幼稚園) 満3歳以上の小学校就学前の子ども。(2号子どもを除く)		
対象者	3歳～5歳		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査(就学前) 問16
	<p>問16(平日定期的に利用したい教育・保育の事業)に回答した者のうち、問16で「1.幼稚園(通常の就園時間の利用)」または「5.認定こども園(幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設)」を選択した者の割合(但し、無回答を除いて割り戻す)を算出する。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>量の見込みは、実績値を下回る数値になっている。そのため、過年度実績(令和2年度～令和5年度の平均利用率40.8%)を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

(人)

	量の見込み					過年度実績				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	917	846	826	841	885	1,886	1,693	1,573	1,433	1,269

<戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	1,386	1,279	1,249	1,272	1,337

## 地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」

### 1 放課後児童健全育成事業（学童保育室事業）

制度における事業の概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後に小学校の余裕教室等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図る事業。		
対象者	小学校に就学している児童		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計及び国の手引き	調査（小学生） 問 28、問 29
	<p>低学年については、問 28（放課後の時間を過ごさせたい場所）で「6．学童保育室」を選択した割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出</p> <p>高学年については、問 29（放課後の時間を過ごさせたい場所）で「6．学童保育室」を選択した割合（但し、無回答を除いて割り戻す）を算出する。</p> <p>ただし、「6．学童保育室」の利用希望を選択し、かつ、6．以外の選択肢も選択している者について、「6．学童保育室」の利用希望が週 1～2 回程度であれば、各自治体の実情に応じて、当該者の割合を控除して算出することも可能とする。</p> <p>&lt; 戸田市の算出方法 &gt;</p> <p>令和 2 年度から 6 年度までの全児童数（推計）に対する学童保育室の利用率の伸び率を算出し、その平均値を令和 6 年度実績に乘じ、その後は同様の伸び率になるものとし算出（1 年度当たりの伸び率約 0.94% 増）。</p>		

< 国の算出方法 >

（利用者数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
低学年	2,206	2,144	2,036	1,936	1,784	1,216	1,411	1,488	1,540
高学年	1,132	1,095	1,050	984	957	263	343	314	369

上段は 1～3 年生、下段は 4～6 年生

< 戸田市の算出方法 >

	調整後の量の見込み				
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度
低学年	1647	1688	1705	1708	1726
高学年	398	409	412	414	417

地域・子ども子育て支援 2  
のべ利用入日数（認可保育園）

## 2 時間外保育事業（延長保育事業）

制度における事業の概要	保育認定を受けた子どもについて、通常の利用日及び利用時間以外の日及び時間において、認定こども園、保育所等において保育を実施する事業。		
対象者	2号認定こども（保育利用） 3号認定こども		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 15 1、2、 問 16
	<p>問 16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）に回答したもののうち、「3．認可保育園（都道府県等の認可を受けたもの）」から「11．居宅訪問型保育（ベビーシッターなど）」のいずれかを選択している。かつ問 15 - 2 最も利用が多い事業（2）（希望）で、「18 時以降」と記入してある場合の割合を算出する。（但し、無回答を除いて割り戻す）</p> <p>&lt; 戸田市の算出方法 &gt;</p> <p>量の見込みは、実績値よりも大幅に上回る数値になっている。そこで、過年度実績（令和2年度～令和5年度の平均利用率 7.0%）を推計年度の児童数に乗じる方法とした。</p>		

< 国の算出方法 >

（利用者数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
全市	2,193	2,165	2,188	2,216	2,275	631	505	539	483

< 戸田市の算出方法 >

	調整後の量の見込み				
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度
全市	473	467	472	478	490

### 3-1 一時預かり事業（幼稚園型）

制度における事業の概要	通常の教育時間の前後や長期休業期間中などに希望者を教育（保育）する事業。園により預かり保育の実施日、時間などの状況は異なる。		
対象者	幼稚園在園児		
算出方法	根拠	ニーズ調査集計結果	調査（就学前） 問 15 - 1、問 16、問 25、問 26
	<p>ア（1号認定に該当すると考えられる子どもの不定期事業の利用希望割合）×イ（不定期事業を利用している幼稚園利用者の一時預かり又は幼稚園の預かり保育の利用割合）を算出する。</p> <p>ア：以下の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問 16（平日定期的に利用したい教育・保育の事業）で、「1．幼稚園（通常の就園時間の利用）」または「5．認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持つ施設）」を選択している。かつ問 26（不定期事業の利用意向）で、「1．利用したい」と選択した者が、これらの問の回答者数に占める割合を算出する。</li> </ul> <p>イ：以下の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問 15 - 1（平日定期的に利用している教育・保育の事業）で、「1．幼稚園（通常の就園時間の利用）」を選択している。かつ問 25（不定期事業の利用状況）で、「2．一時預かり（私用など理由を問わずに戸田公園駅前子育て広場などで一時的に子どもを保育する事業）」または「3．幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち、不定期に利用する場合）」を選択した者の割合を算出する。</li> </ul> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>量の見込みは、実績値よりも大幅に下回る数値になっている。そこで、過年度実績（令和2年度～令和5年度の年間平均利用数 20.2 回）をもとに、1号認定数（量の見込）に乗じる方法とした。</p>		

#### <国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	2,889	2,665	2,604	2,651	2,788	27,497	33,183	38,479	32,034

#### <戸田市の算出方法>

	調整後の量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	28,065	25,892	25,297	25,751	27,081



### 3-2 一時預かり事業（幼稚園型を除く）

制度における事業の概要	家庭において保育を受けることが一時的に困難となった乳幼児について、主として昼間において、認定こども園、幼稚園、保育所、地域子育て支援拠点その他の場所において、一時的に預かり、必要な保護を行う事業。		
対象者	小学校就学前までの子どもで、通常保育の対象でないもの		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 26
	<p>問 26（不定期事業の利用意向）に回答した者のうち、「1. 利用したい」を選択した者の割合を算出する。調査結果から 一時預かり、ファミリー・サポート・センター、トワイライトステイの年間平均利用日数を算出し、家庭類型別児童数に利用率と平均利用日数を乗じて見込みを算出する。</p> <p>&lt; 戸田市の算出方法 &gt;</p> <p>過年度実績との乖離が大きく、これは、本来利用する必要性が低いと考えられる2号認定（保育利用）や3号認定（0～2歳）による利用希望がそのまま反映されている。そのため、令和2年度～令和5年度の1歳から5歳の合計児童人口から2号認定、3号認定（1,2歳児）数を差し引いたうえで算出した一人あたりの年間平均利用数（2.2回）をもとに、推計年度の1歳から5歳の合計推計人口から2号認定、3号認定（1,2歳児）数（量の見込）を差し引いた数に一人あたりの年間平均利用数（2.2回）を乗じる方法とした。</p>		

< 国の算出方法 >

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	103,742	102,591	103,790	105,085	107,838	7,030	6,914	6,630	5,525

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	5,521	5,421	5,473	5,548	5,728

<戸田公園駅前子育て広場>

	7 年 度	8 年 度	9 年 度	10 年 度	11 年 度
確保方策	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440

#### 4 ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）

制度における事業の概要	乳幼児や小学生等の児童を有する子育て中の保護者を会員として、児童の預かり等の援助を受けることを希望する者と当該援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業。		
対象者	小学生までの子ども		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査 問 25、問 28、29
	<p>ニーズ調査による就学前児、就学児の利用意向はなかった。これは、ファミリーサポート事業の現在の利用内容が学童や保育所の送迎が多い状況の中、設問が「放課後、子どもをどこで過ごさせたいか」という内容であったため、「利用したい」と回答する人がいなかったと考えられる。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt; 2年度～5年度の実績値基に量の見込みを算出した。</p>		

<国の算出方法>

(年間延べ利用者数：人日)

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
未就学	0	0	0	0	0	1,053	1,312	1,386	1,981
就学	0	0	0	0	0				

(戸田市の算出方法)

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	2,445	2,677	2,783	2,899	2,957

## 5 病児保育事業（病児・病後児保育事業）

制度における事業の概要	病児について、病院・保育所等に付設された専用スペース等において、看護師等が一時的に保育等をする事業。		
対象者	幼稚園・保育所等に通っている子ども及び小学生		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 24-1、2
	<p>【病児・病後児の発生頻度】</p> <p>問 24 - 1（病気やけがで事業ができなかった場合の対処方法）で、「1 . 父親が休んだ」「2 . 母親が休んだ」に回答した者のうち、問 24 - 2（病児・病後児保育等の利用意向）で「1 . できれば病児・病後児保育施設等を利用したいと思う」と回答した者と、問 24 - 1 で「5 . 病児・病後児のための保育施設を利用した」「7 . 緊急サポートセンターによる病児・病後児預かりを利用した」「8 . 仕方なく子どもだけで留守番をさせた」と回答した者の合計を問 24 の回答者全員で割る。</p> <p>&lt; 戸田市の算出方法 &gt;</p> <p>国のニーズ調査は 0～5 歳以下家庭で量の見込みを算出しているが、戸田市では小学生まで利用状況の実績に基づいて、0～小学生までの推計児童数で算出している。過年度実績 5 年度の利用率（1.4%）に推計年度の児童人口を乗じる方法とした。</p> <p>利用率(1.4%)は 5 年度の 0～小学生までの実人口 15,426 人で算出している)</p>		

< 国の算出方法 >

(年間延べ利用者数：人日)

	量の見込み					過年度実績			
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
全市	18,004	17,772	17,964	18,190	18,678	170	234	140	212

(戸田市の算出方法)

	量の見込み				
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度
全市	201	197	193	189	187

## 6 地域子育て支援拠点事業

制度における事業の概要	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業。		
対象者	0～2歳		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査(就学前) 問19、問20
	<p>問19(地域子育て支援拠点事業の利用状況)で「1.親子ふれあい広場」から「5.児童センターこどもの国わんぱくタイム」(を利用している)と回答した者の人数と、問20地域子育て支援拠点事業の利用意向)で、「4.新たに今後利用したい」と回答した者の人数を、回答者全体の人数(問19または問20無回答の人数を除く)で割り利用意向を算出し、家庭類型別児童数にかける。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>量の見込みは、実績値よりも大幅に下回る数値になっている。そこで、2年度～5年度の1人あたり利用日数(実績÷0～2歳人口:11.7日)を推計年度の児童人口に乗じる方法とした。</p>		

<国の算出方法>

(年間延べ利用者数:人日)

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	3,481	3,664	3,813	3,844	3,867	26,020	39,624	46,274	58,951

(戸田市の算出方法)

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	39,763	42,159	44,179	44,484	44,766

## 7 利用者支援事業

制度における事業の概要	<p>【基本型・特定型】 子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整等を実施する事業。</p> <p>【こども家庭センター型】 保健師等の専門職が、妊娠期から子育て期にわたるまでの母子保健や育児に関する妊産婦等からの様々な相談に応じ、その状況を継続的に把握し、支援を必要とする者が利用できる母子保健サービス等の情報提供を行うとともに、関係機関と協力してサポートプランの策定などを行う。</p>		
対象者	<p>子ども保護者（主に就学前） 妊産婦、乳幼児及びその保護者</p>		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt; 2年度～5年度の配置数を基に量の見込みを算出した。 多様な教育・保育施設や地域の子育て支援事業についての専門知識を有する職員の配置を推進していきます。</p>		

（配置数：か所）

	量の見込み(基本型)					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	1	1	1	1	1	1	1	1	1

（配置数：か所）

	量の見込み(地域子育て相談機関)					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	1	2	4	5	6	新規			

(配置数：か所)

	量の見込み(特定型)					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(配置数：か所)

	量の見込み(こども家庭センター型)					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	1	1	1	1	1	0	0	0	0

## 8-1 子育て短期支援事業（ショートステイ事業）

制度における事業の概要	保護者の疾病等の理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設等に入所させ、必要な保護を行う事業。		
本市事業名	ショートステイ	提供区域	全市
対象者	0～5歳児		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問27
	<p>問27（泊りがけの預け先）で「1. あった」に回答した者のうち、「ア.（同居者を含む）親族・知人にみてもらった」から「キ. その他」を回答した者の割合を算出する。ニーズ調査による就学前児の利用意向はなかった。</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt; 2年度～5年度の実績値を基に量の見込みを算出した。</p>		

<国の算出方法>

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	0	0	0	0	0	13	24	59	57

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	60	65	70	75	80



## 8-2 子育て短期支援事業（トワイライトステイ事業）

制度における事業の概要	保護者が就業等で帰宅が遅くなり、子どもの夜間の養育が困難な場合に児童福祉施設で児童を預かる事業。		
本市事業名	トワイライトステイ	提供区域	全市
対象者	小学校 1 年生～6 年生		
算出方法	根拠	国の手引きに基づいて算出	調査（就学前） 問 26
	<p>問 26（不定期事業の利用意向）に回答した者のうち、「1．利用したい」を選択した者の割合を算出する。調査結果からトワイライトステイの年間平均利用日数を算出し、家庭類型別児童数に利用率と平均利用日数を乗じて見込みを算出する。ニーズ調査による就学児の利用意向はなかった。</p> <p>&lt; 戸田市の算出方法 &gt; 2 年度～5 年度の実績値を基に量の見込みを算出した。</p>		

< 国の算出方法 >

（年間延べ利用者数：人日）

	量の見込み					過年度実績			
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
全市	0	0	0	0	0	73	5	525	626

（戸田市の算出方法）

	量の見込み				
	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度
全市	650	700	750	800	850

## 9 乳児家庭全戸訪問事業

制度における事業の概要	生後4か月までの乳児のいるすべての家庭を看護職が家庭訪問し、赤ちゃんの体重測定・育児相談・お母さんの体の相談・母子保健サービスや予防接種の案内を行う。		
本市事業名	こんにちは赤ちゃん訪問事業		
対象者	生後4か月までの産婦または乳児 生後4か月までの乳児のいるすべての家庭		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt; 各年度の0歳推計児童数とする。 事業及び「お誕生連絡票」、「出生連絡票」の提出について周知を図りながら、すべての家庭に訪問できるよう努めます。</p>		

（訪問件数：人）

	量の見込み					過年度実績				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
全市	1,230	1,241	1,249	1,259	1,264	1,334	1,153	1,174	1,082	1,100

## 10 養育支援訪問事業

制度における事業の概要	養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する事業。		
対象者	養育支援が特に必要な家庭		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>2年度～5年度の実績値を基に量の見込みを算出した。</p>		

（訪問件数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	1	1	1	1	1	0	0	1	1

## 11 妊婦健康診査事業

制度における事業の概要	妊婦の疾病の早期発見や健康管理のため、健康診査を実施。 母子健康手帳の交付時に、妊婦健康診査の助成券（14回分）を配布する。		
対象者	全ての妊婦		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>各年度の0歳推計児童数とする。</p> <p>妊婦の健康管理の向上を図るため、妊婦健康診査を推進していきます。</p>		

（対象者数：人）

	量の見込み					過年度実績			
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	2年度	3年度	4年度	5年度
全市	1,230	1,241	1,249	1,259	1,264	1,334	1,153	1,174	1,082

## 12 子育て世帯訪問支援事業（新規項目）

制度における事業の概要	<p>支援の内容については、対象家庭を訪問し、若しくは又はを同時に行うことを基本に、家庭の状況に合わせ以下の内容を包括的に実施する。</p> <p>家事支援（食事準備、洗濯、掃除、買い物の代行やサポート等）</p> <p>育児・養育支援（育児のサポート、保育所等の送迎、宿題の見守り、外出時の補助等）</p> <p>子育て等に関する不安や悩みの傾聴、相談・助言（保護者に寄り添い、エンパワメントするための助言等。なお、保健師等の専門職による対応が必要な専門的な内容は除く。）</p> <p>地域の母子保健施策・子育て支援施策等に関する情報提供</p> <p>支援対象者や児童の状況・養育環境の把握、市町村への報告</p>		
対象者	本事業による支援が必要であると市町村が認めた人		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>6年度における対象世帯数（19世帯）に、平均利用日（29日）を乗じ、算出した。</p>		

（対象者数：人日）

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	344	344	344	344	344

### 13 児童育成支援拠点事業（新規項目）

制度における事業の概要	<p>支援の内容については、課題を抱える児童の居場所を提供するという事業の目的を踏まえ、包括的に実施する内容としては ~ とし、地域の実情等に応じて を実施する。</p> <p>~ の支援内容は、常時実施しなければならないわけではなく、利用者の状況や希望に応じて、確実に提供できるよう体制を整備する必要がある。</p> <p>&lt;包括的に実施する内容&gt;</p> <p>安全・安心な居場所の提供</p> <p>生活習慣の形成（片付けや手洗い、うがい等の健康管理の習慣づけ、日用品の使い方に関する助言等）</p> <p>学習の支援（宿題の見守り、学校の授業や進学のためのサポート等）</p> <p>食事の提供</p> <p>課外活動の提供</p> <p>学校、医療機関、地域団体等の関係機関との連携</p> <p>保護者への情報提供、相談支援</p> <p>&lt;地域の実情等に応じて実施する内容事項&gt;</p> <p>送迎支援</p>		
対象者	本事業による支援が必要であると市町村が認めた人		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>令和8年度まで実施予定なし。（実施が決定後、見込みを算出）</p>		

（対象者数：人日）

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	-	-	-	-	-

## 14 親子関係形成支援事業（新規項目）

制度における事業の概要	<p>児童との関わり方や子育てに悩み・不安を抱えた保護者が、親子の関係性や発達に応じた児童との関わり方等の知識や方法を身につけるため、当該保護者に対して、講義、グループワーク、個別のロールプレイ等を内容としたペアレント・トレーニング等を実施するとともに、同じ悩みや不安を抱える保護者同士が相互に悩みや不安を相談・共有し、情報の交換ができる場を設けることで、健全な親子関係の形成に向けた支援を行う事業。</p>		
対象者	親子の関係性や児童の関わり方等に不安を抱えている児童を養育する家庭		
算出方法	根拠	独自算出	調査（就学前）
	<p>ニーズ調査及びワークシートからは算出されないが、計画書には掲載する事業</p> <p>&lt;戸田市の算出方法&gt;</p> <p>6年度における対象世帯数（10世帯）を全児童数（0～17歳）で割り、推計人口に乗じる。</p>		

（対象者数：人）

	量の見込み				
	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
全市	10	10	10	9	9